

歩いて暮らせる生活圏の中に、暮らしに必要な機能を集約
「次世代郊外まちづくり」が目指す「コミュニティ・リビング」を具現する
地域利便施設「CO-NIWAたまプラーザ」が10月から順次オープン！

東京急行電鉄株式会社

当社は、郊外住宅地の持続発展を目指し、2012年に横浜市と協定を締結し、産・学・公・民が連携して、「たまプラーザ駅北側地区」をモデル地区に、「次世代郊外まちづくり」を推進しています。今般、2018年10月から順次オープン予定の、「コミュニティ・リビング」を具現する地域利便施設「CO-NIWAたまプラーザ」(以下、本施設)の入居テナントが決定しました。

次世代郊外まちづくりでは、良好な住宅地とコミュニティの持続と再生の実現に向けて、「WISE CITY(※1)」を、目指すまちの将来像として掲げ、その具現化に取り組んでいます。コミュニティ・リビング(※2)とは、歩いて暮らせる生活圏の中に、買い物、医療、福祉、コミュニティ活動など、暮らしに必要な機能を集約する考え方で、「WISE CITY」を実現する上で、核となる理念です。(※1、※2 別紙参照)

本施設は、「ドレッセWISEたまプラーザ」の低層部に位置する地域利便施設で、駅至近の集合住宅と一体的に開発することで、「コミュニティ・リビング」を具現します。地域コミュニティの活性化の核として、「多世代コミュニティの醸成」「地域の保育・子育て支援」「地域の働く場の創出」を目的に、「コミュニティ・カフェ」「保育園・学童保育」「コワーキングスペース」の3つの機能を備えます。

「コミュニティ・カフェ」は、エノテカ株式会社、日本レストランシステム株式会社、株式会社代官山ワークスが、3つのカフェを構え、既存の地域団体などのコミュニティにも活動の場を提供するなど、地域のコミュニティを育む拠点を目指します。「保育園・学童保育」は、株式会社グローバルキッズが保育園、株式会社キッズベースキャンプが学童保育を開設し、まち全体で子どもたちを守り・育てる活動を支援します。「コワーキングスペース」は、アウトソーシング事業などを通じて沿線の方々に就労機会を提供している、当社のセラシス事務局が事務所を構え、キッズスペースを設けることで子育て世代のワーカーが「地域で働く」ことをサポートします。

また、多様な世代・多様な住民の交流によるコミュニティ形成の促進を目的に、本施設のテナントやドレッセWISEたまプラーザの管理組合などの構成員で、エリアマネジメント活動に取り組みます。街や暮らしにさらなる活気を創出するイベント開催や、本施設の各機能との連携・協業に向けて、持続発展可能な運営の仕組みなどを検討していきます。

詳細は、別紙の通りです。



▲マルシェやワークショップの開催も可能な貫通広場のイメージ



▲にぎわう店舗前広場のイメージ

以上

【別紙】

CO-NIWAたまプラーザ

CO-NIWAたまプラーザは、歩いて暮らせる生活圏の中に、買い物、医療、福祉、コミュニティ活動など、暮らしに必要な機能を集約する、まちづくりの考え方「コミュニティ・リビング」を具現する、地域利便施設です。「ドレッセWISEたまプラーザ」の低層部に位置し、集合住宅と一体的に開発します。「CO-NIWA」という名称には、「人々が共同して、さまざまな活動を行う場(庭)」にしたいという想いを込めています。

CO-NIWAたまプラーザを発端として、「CO-NIWA」がまちや沿線に広がっていくことで、次世代郊外まちづくりが掲げる「WISE CITY」の実現を目指します。



- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 エノテカ株式会社【COURT[A] 1F】 | 4 東京急行電鉄株式会社 セラン事務局【COURT[B] 2F】 |
| 2 日本レストランシステム株式会社【COURT[B] 1F】 | 5 株式会社キッズベースキャンプ【COURT[C] 1F】 |
| 3 株式会社代官山ワークス【COURT[B] 1F】 | 6 株式会社グローバルキッズ【COURT[C] 2F】 |

地域のコミュニティを育む“コミュニティ・カフェ”

地域のコミュニティを育む拠点を目指し、3つのカフェから構成される“コミュニティ・カフェ”をつくります。各店舗内には「コミュニケーションカウンター」を設け、地域の方々やお客さまから、産地や調理方法など「食」に関する質問や疑問、イベントやワークショップの相談に対応します。

■エノテカ株式会社

「豊かな人生を楽しむ地域の社交場」をコンセプトに、美しが丘の成熟した感性を持つ大人やファミリーが集い、ワインなどを通してコミュニケーションが生まれる店舗を展開します。



■日本レストランシステム株式会社

「コーヒーショップが地域の為にできること」をコンセプトに、本・アート・珈琲のコンテンツで、子どもから大人まで幅広い世代に向けて【考える】【学ぶ】【楽しむ】場を提供します。



■株式会社代官山ワークス

都市型マルシェを多数運営する代官山ワークスが「地域がつながる“たべものがたり”」をコンセプトに、食材を通じて生産者と食卓をつなぐレストラン&マルシェを初オープン。近郊農家と協力した「農家体験」や野菜の販売体験「キッズマルシェ」など、食を通じたコミュニティ醸成を図ります。



“まちぐるみでの保育・子育て”のフラッグシップ(保育園・学童保育)

次世代郊外まちづくりから生まれた取り組みである「こども・子育てタウンミーティング」、「ファミリーリソースプロジェクト」との連携や、関連する取り組みを実施し、まちぐるみの子育てを支える保育園、学童保育を導入します。

■株式会社グローバルキッズ(認可保育園事業者)

子どもたちに夢を持たせ、感謝の心を養い、学ぶ姿勢をはじめとする社会における「生きる力」を育む保育園です。園内にはコミュニティスペースを設営し、地域の子育て世代向けに、子育てに関するセミナーや専門家による育児相談会、地域の保育子育てに関する情報発信などを実施し「まちぐるみでの保育・子育て」の一翼を担います。



■株式会社キッズベースキャンプ(学童保育事業者)

「キッズベースキャンプα(アルファ)」は、知識活用型の学童保育です。小学生を対象に最長22時までのお預かり、「送迎・セキュリティ・食事・急病時対応」など、安心のサービスを提供します。また、ゴミ拾いの参加など、地域と密接につながるプログラムを企画します。その他、多彩な講座やイベントで、知的好奇心とコミュニケーション力を育みます。



新たな地域経済循環を生む”郊外での新しい働き方”(コワーキングスペース)

「身近な就労」機能の提供を目的に、キッズスペースを設けた就労施設を整備し、子育て世代への就労機会の提供など、さらなる多様な働き方に応え、地域人材の活用を図ります。

■東京急行電鉄株式会社 セラン事務局

企業へのアウトソーシングサービス事業を通じて、各種広報媒体の企画・制作や事務局代行、データ処理など、多様な分野で沿線在住の方に就労の機会を提供します。



※各店舗の営業時間・店舗名称などの詳細は、別途お知らせします。

エリアマネジメント

ドレッセWISEたまプラーザ管理組合、CO-NIWAたまプラーザの各テナント、当社で構成されるエリアマネジメント団体「(仮称)ドレッセWISEたまプラーザエリアマネジメント」を組成し、貫通広場、コミュニティ・コアなどのスペースを活用しながら、CO-NIWAたまプラーザ全体の魅力創出につながる取り組みを推進します。

また、「次世代郊外まちづくり」のこれまでの取り組み成果を活かし、美しが丘連合自治会、地域商店街などの地域団体・活動とも連携し、地域の課題解決や魅力向上につながる7つの目標を掲げ、さまざまなイベントや取り組みを進めます。

■(仮称)ドレッセWISEたまプラーザエリアマネジメントが掲げる7つの目標

- ①多世代が支えあうコミュニティの創出
- ②情報プラットフォーム「まちの掲示板」の構築
- ③遊歩道と商店街の回遊性の向上
- ④ソーシャルビジネスの起業機会の創出
- ⑤エリアマネジメントの人材育成
- ⑥まちぐるみの保育・子育てネットワークづくり
- ⑦「コミュニティリビング」モデル・プロジェクトの推進

<参考>ドレッセWISEたまプラーザ(美しが丘一丁目計画)



所在地	神奈川県横浜市青葉区美しが丘一丁目8番1(地番)
交通	田園都市線「たまプラーザ」駅から徒歩4分
総戸数	278戸
構造/階層	鉄筋コンクリート造/地上10階地下1階建(COURT[A]・COURT[C])・地上9階地下1階建(COURT[B])
施工	東急建設株式会社
管理会社	株式会社東急コミュニティー
入居開始予定日	2018年9月下旬



▲敷地配置図



▲現地案内図

※1 参考①:「次世代郊外まちづくり」が目指すまち「WISE CITY」

既存のまちが創りかえられ、良好な住環境とコミュニティの持続と再生が実現した郊外住宅地の将来像を、「WISE CITY(ワイズシティ)」と名付け、「次世代郊外まちづくり」が目指すまちの将来像として掲げています。「WISE CITY」とは、Wellness・Walkable & Working、Intelligence & ICT、Smart・Sustainable & Safety、Ecology・Energy & Economyの頭文字をとった造語です。WISEという言葉には「賢い、懸命な」という意味もあり、WISE「賢いまちづくり」を目指す、という思いも込められています。



※2 参考②:コミュニティ・リビング

歩いて暮らせる適度な生活圏ごとに、買い物、福祉、医療、子育て、コミュニティ活動など、地域に必要な機能を空き家や空き地、土地利用転換の機会などを活用して適切に配置し、それらを密接に結合させていく考え方。コミュニティ・リビングを実現することで、住まいから歩ける距離に暮らしに必要な機能が整い、高齢化した住民が自宅で安心して暮らせるようになります。「次世代郊外まちづくり」を進める上で、主要な理念として位置付けています。

